



消防千葉

2015 No.535 平成27年3月号

平成 27 年 3 月 1 日 編集兼発行人
千葉市中央区仁戸名町666番地2 千葉県消防会館内
公益財団法人千葉県消防協会会長 石橋 毅
TEL043(263)9885
郵便番号 260-0801
ホームページ <http://business4.plala.or.jp/chisyo/>
メールアドレス .chisyokai@bz04.plala.or.jp



成田の梅まつり（成田市）印旛支部

巻 頭 言

「安全・安心の町づくりを目指して」

栄町消防本部 消防長 奥野 三男



栄町は、千葉県の北部、利根川流域に位置し、東は成田市、南は印旛沼、西は印西市、北は利根川をはさんで茨城県河内町に接し、東京都心より45km圏に入り千葉市からは35kmの距離で成田国際空港へは10kmのところのところに位置します。総面積は、32.46kmで東西に約12km、南北に約5kmの東西に長く東部は一带に高台で山林、畑が多く南部及び西北部は平坦で豊かな水田地帯が広がっています。

明治4年、本町は廃藩置県によって印旛県、同22年に境村となり同25年に安食町と改称。その後、昭和29年に豊住村（現成田市）の一部を編入、翌30年12月1日に安食町と布鎌村が合併して、現在の栄町が誕生しました。

消防組織は、昭和60年4月に栄町役場総務課に救急準備室を発足し翌年の7月に救急業務を13名で開始しました。その後、平成6年10月に消防本部及び消防署を設置し、現在は、43名の消防職員により、町民の安全を確保すべく消防行政を推進しているところです。

しかしながら、消防団員は担い手が減少傾向にある中で消防団に対する期待が高まる状況に反して、消防団を取り巻く社会環境は厳しい状況となっており、地域防災力の充実強化を図る必要性を考えると、消防団員の処遇改善及び人員確保は重要課題であり、各地域住民に消防団活動を十分理解していただき団員数の確保を目指しています。

本町消防も、災害の大規模化・多様化に加え救急需要の更なる増加等への対応など、町民の安心安全を守る消防の役割は大きくなってまいりました。

また、災害等に対応する十分な資機材や人員を確保することは、非常に難しいものがある中で、消防本部では、人材の育成、職員の資質の向上を図ることを目標にして、行政機関への研修参加や講師を招いての教養や訓練を実施しているところであります。

本年は、栄町が誕生して60年の節目の年を迎えることとなります。

そこで、合併60周年記念事業を実施することとし、記念式典を10月10日に実施するほか、1年を通じて様々な記念イベントを開催に向けた準備を進めております。

平成27年新春を迎え 県内各地で消防出初式開催

平成27年の新春を迎え、恒例の消防出初式が1月4日(日)の鋸南町を皮切りに2月8日(日)の成田市までの間、県下48消防団において消防職・団員をはじめ消防関係者や地域住民の参加のもと盛大に繰り広げられました。

消防出初式は、新しい年を迎え、消防職・団員が地域の安心・安全を守る職責の自覚を新たにし、防火・防災に対する消防人の心意気を示すとともに、地域住民の防災意識を高めるために毎年実施しているものです。

各会場には森田千葉県知事、倉田消防協会最高名誉顧問、石橋消防協会長、消防協会各支部長などが出席し、人員、器具の点検に始まり、パレードや分列行進などが規律正しく行われ、長年功労のあった消防団員の表彰等も行われました。

また、海難救助訓練、建物火災を想定した消火訓練や伝統を感じさせるとび職組合員によるはしご乗りの演技、神楽の演技披露、それぞれの地域での特色ある出初式が、多数の地域住民や家族が見守る中、整然と行われました。

各地の消防出初式の様子を写真により一部紹介します。

☆鴨川市消防出初式 1月6日(火)



石橋消防協会長の祝辞



神楽披露(川代保存会)



機械器具点検

☆松戸市消防出初式 1月10日(土)



倉田最高名誉顧問の祝辞

☆千葉市消防出初式 1月10日(土)



高橋副知事の祝辞



石橋消防協会長の祝辞



航空隊による救出活動



はしご乗り演技



中高層建物火災の消火・救出・救護活動



消防艇・航空隊による海難救助活動

☆東庄町消防出初式 1月12日（月）



石橋消防協会長の祝辞



纏 披 露

☆成田市消防出初式 2月8日（日）



森田知事の祝辞



石橋消防協会長の祝辞



知事表彰



部隊観閲

千葉県消防協会臨時理事会の開催

千葉県消防協会臨時理事会が平成26年12月16日(火)に千葉市内で開催されました。

石橋 毅会長の挨拶の後、第20回全国女性消防団員活性化大会の結果報告等について審議が行われ、原案どおり議決されました。

◆報告事項

- 1 平成26年度の職務執行状況について
- 2 平成27年の出初式について
- 3 第65回千葉県消防大会について
- 4 平成27年度日本消防協会主要行事予定について
- 5 消防団を中核とした地域防災力充実強化大会について



平成26年度 婦人防火研修会の開催

千葉県婦人防火クラブ連絡協議会 会長 竹内 久子

去る1月22日(木)、千葉県消防学校講堂に県下各地から婦人防火クラブ員ほか消防・防災関係者多数のご参集を頂き、第29回婦人防火研修会が開催されました。

はじめに、主催者を代表して石橋毅会長(千葉県少年婦人防火委員会・千葉県消防協会)と筆者から挨拶いたしました。

次に、来賓の酒井正人県消防学校長の紹介に続き一般社団法人日本防火・防災協会秋本敏文会長からの祝電の披露がありました。

午前中は、著者から「住宅防火対策について」と題して「平成26年版消防白書」(総務省消防庁)を紹介しました。

- 火災総出火件数は、48,095件と前年より3,906件増加している。
- 火災による総死者数は1,625人、住宅火災による死亡者数は997人であり、いずれも前年より若干の減少がみられる。



竹内会長

- 住宅火災による死亡者のうち高齢者が70.5%と多く、今後さらに増加することが懸念される。
- 出火原因は放火による火災が17年連続して依然として1位。
- 住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の設置状況（平成26年6月1日現在）をみると全国設置率は79.6パーセントに対し本県の平均は74.5パーセント。全国平均にも及ばない。一層の推進が必要。併せて住警器設置後のメンテナンスについてクラブ員にお願いしました。

続いて、松戸市二ツ木女性防火クラブの中野啓子会長から活動内容の発表がありました。東京ディズニーリゾートなどでの研修会をはじめ、松戸市総合防災訓練への参加、春季・秋季火災予防運動では街頭キャンペーンや家族防火診断の実施、消防出初式への参加、ひとり暮らし高齢者住宅防火訪問および住警器設置促進など「自分たちの地域は自分たちで守る」をモットーに活発な防火・防災活動の内容について報告がありました。

午後は、社会福祉法人東松島市社会福祉協議会常務理事兼事務局長阿部英一氏から『3.11 東日本大震災～あれから4年～「東松島市と社協の被災者支援活動」～大震災を風化させないために～』と題してリアルで貴重なご講演をいただきました。

- (1) 平成23年3月11日(金)午後2時46分突然地鳴りとともに強烈な横揺れ。マグニチュード9.0・震度6強（宮城県北の震度は7）の地震に見舞われ、津波により市街地の65パーセントが浸水被害、全世帯の約97パーセントが被災し、死者1,109人、行方不明者25人、9割近くのライフラインがストップ。大津波により市内は漁業・農業を含め壊滅的な被害を受けた。
- (2) 発災直後、市は災害対策本部を立ち上げ、100日間、関係機関の要員約100名が情報収集と情報共有し活動にあたった。なかでも、消防団員等による行方不明者の捜索、自衛隊による捜索と遺体搬送、遺体の収容、仮安置が600体を超えた。
- (3) 学校の体育館に2万人を超える避難者を収容するという事態となり、仮設住宅建設までの間は不自由で過酷な避難所生活が続いた。避難者は涙ながらお互い協力し励まし合っていた。
- (4) 発災当日、社協は福祉避難所を開設したほか、緊急小口資金の融資、生活復興支援資金貸付、災害ボランティアセンター、社協生活復興支援センター、被災者サポートセンター、生活支援相談センターなどを開設・運営を行った。
- (5) これまでの被災者支援から地域福祉への転換が俟たれる。東日本大震災を契機に、支え合いのある社会、皆が助け合う社会建設に向け、日頃から「人と人との繋がりを大切に」をモットーに地域福祉の充実を期している。
- (6) 来るべき次の災害に対しては、防災・減災による災害に強いまちづくりへの転換。防災知識の普及、自主防災組織の育成、防災拠点の整備などに取り組んでいる。
- (7) 東日本大震災を通して得られた貴重な体験・反省点や自然災害の恐ろしさを風化させず次世代に伝承するため記録誌「伝承」を発刊した。阿部氏の講演をもって今回の研修は滞りなく盛会裡のうちに終了しました。

おわりに研修会開催にあたり協力を賜りました公益財団法人千葉県消防協会、一般財団法人日本防火・防災協会、千葉県消防学校及び終始熱心に聴講頂きました皆様にご心から感謝申し上げます。



石橋会長



中野会長



阿部講師

多年の労苦に輝く栄光

主な受章者の紹介

《春の叙勲 9名》

(瑞宝小綬章)

元千葉市消防局 消防正監 齋藤 照 元船橋市消防局 消防正監 佐久間 隆

(瑞宝双光章)

元我孫子市消防団 団 長 飯田 和行

(瑞宝单光章)

元千葉市消防団 副 団 長 石橋 岩雄 元匝瑳市消防団 団 長 及川 重幸

元芝山町消防団 団 長 岩澤 幸男 元成田市消防団 団 長 佐藤 弘

元長生郡市広域市町村圏組合消防団 元山武市消防団 団 長 藪 利雄

副 団 長 大和久寛喜

《秋の叙勲 11名》

(瑞宝小綬章)

元山武郡市広域行政組合消防本部 消防正監 秋葉 治夫 元千葉市消防局 消防司監 國吉 政明

元長生郡市広域市町村圏組合消防本部 消防正監 川崎 功 元佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部 消防正監 鈴木 留男

(瑞宝双光章)

元野田市消防団 団 長 近藤 利夫

(瑞宝单光章)

元佐倉市消防団 団 長 秋田 豊 元成田市消防団 団 長 小川 繁

元千葉市消防団 分 団 長 石川 弘 元白井市消防団 団 長 内藤 肇

元船橋市消防団 団 長 伊藤日出夫 元匝瑳市消防団 団 長 藤井 嘉徳

《第22回危険業務従事者叙勲 31名》

(瑞宝双光章)

元旭市外三町消防組合消防本部 消防司令長 飯笹 與一 元匝瑳市横芝光町消防組合消防本部 消防司令長 木下 春二

元流山市消防本部 消防司令長 石塚 正夫 消防司令長 榎田 健一

元安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部 消防 監 石渡 裕 元八千代市消防本部 消防 監 幸田 研二

元市川市消防局 消防 監 岩井 徹夫 元四街道市消防本部 消防司令長 小林 廣

元市川市消防局 消防 監 江沢 光宏 元習志野市消防本部 消防司令長 篠田 俊夫

元匝瑳市横芝光町消防組合消防本部 消防 監 大木 信夫 元八千代市消防本部 消防 監 鈴木 清一

元佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部 消防司令長 小川金右工門 消防 監 高橋 三郎

元成田市消防本部 消防 監 小倉 松夫 元松戸市消防局 消防司令長 高山 文夫

元船橋市消防局 消防 監 北原慶一郎 元銚子市消防本部 消防司令長 中野 稔

元流山市消防本部 消防司令長 村越 俊男 元銚子市消防本部 消防 監 羽根川一男

元成田市消防本部 消防 監 山田 行雄 元市原市消防局 消防司令長 早野 幸夫

元鎌ヶ谷市消防本部 消防司令長 本田 昇三

(瑞宝双光章)

元印西地区消防組合消防本部

消防司令長 綿貫 照幸

元夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部

消 防 監 松崎 已美

(瑞宝单光章)

元木更津市消防本部 消防司令長 浦邊 金吾

元小見川町外2町消防組合消防本部

元船橋市消防局 消防司令長 佐久間武雄

消防司令長 堀江 良明

元君津市消防本部 消防司令長 白石 雅廣

元千葉市消防局 消 防 司 令 湯浅 國男

元松戸市消防局 消 防 司 令 中村 武夫

《第23回危険業務従事者叙勲 31名》

(瑞宝双光章)

元木更津市消防本部 消防司令長 阿部 徳

元千葉市消防局 消 防 監 嶋野 友明

元我孫子市消防本部 消防司令長 荒井 和夫

元佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部

元市原市消防局 消 防 監 池田 進

消 防 監 白鳥 直木

元旭市消防本部 消防司令長 岩井 治一

元旭市消防本部 消 防 監 菅谷 衛一

元印西地区消防組合消防本部

元市川市消防局 消 防 監 高橋 里志

消防司令長 大木 文次

元柏市消防局 消防司令長 中山 松雄

元習志野市消防本部 消 防 正 監 小川 則行

元安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部

元山武郡市広域行政組合消防本部

消 防 監 早川 精一

消防司令長 小倉 静雄

元夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部

元成田市消防本部 消 防 監 小倉 三男

消 防 監 藤江 久男

元四街道市消防本部 消防司令長 海保 光良

元富津市消防本部 消 防 監 松井 朝市

元銚子市消防本部 消防司令長 神尾 和夫

元千葉市消防局 消 防 正 監 松本 一敏

元成田市消防本部 消防司令長 小堀 明

元松戸市消防局 消 防 監 宮内 彦行

元八千代市消防本部 消防司令長 齊藤 清

元長生郡市広域市町村圏組合消防本部

元松戸市消防局 消防司令長 齊藤 正春

消 防 監 森 喜央

(瑞宝单光章)

元小見川町外2町消防組合消防本部

元千葉市消防局 消防司令長 清宮 悦夫

消 防 司 令 宇井野吉雄

元船橋市消防局 消防司令長 蜂谷 政明

元佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部

元君津市消防本部 消 防 監 早坂 勲

消 防 監 櫻井 久之

元柏市消防局 消防司令長 山野辺新作

元流山市消防本部 消防司令長 渋谷 義博

《春の褒章 3名》

(紅綬褒章)

人命救助 山崎 貴之

(藍綬褒章)

柏市消防団 団 長 小田山博史 東金市消防団 団 長 布留川博保

《秋の褒章 4名》

(藍綬褒章)

富里市消防団 副 団 長 秋葉 政則 市川市消防団 副 団 長 榎本 敬良

千葉市消防団 団 長 白井 正巳 成田市消防団 副 団 長 湯浅 雅明

《文化の日千葉県功労者表彰 3名》

銚子市消防団 団 長 芝岸 弘 一般社団法人千葉県消防設備協会

富津市消防本部 消 防 監 高橋 進一 副 会 長 石井 尚嘉

東 南 西 北

東 西 南 北 地域の宝を地域の手で 船橋市中央消防署

船橋市中央消防署（大野光雄署長）では、平成27年1月26日（月）13時から文化財防火デーに伴う消防訓練を県指定文化財の灯明台がある船橋大神宮で行いました。

訓練想定は灯明台付近の枯草からの出火想定のもと、船橋大神宮の神職が119番通報を行うとともに、見学者の避難誘導及び初期消火訓練を行いました。

訓練終盤では地元消防団及び中央消防署の車両が灯明台への延焼阻止のため、一齐に放水を行い、訓練に参加している小学生約400人の児童から大きな拍手と歓声が上がりました。

訓練後、船橋大神宮の宮司は、「地域の文化財を地域の力で守っていることを付近住民や地元小学生が知ることができる貴重な機会であり、今後も続けていただきたい」と語っておりました。



東 西 南 北 文化体育事業の開催 八千代市消防団

八千代市消防団（安原健吉消防団長）では、平成27年2月6日（金）、消防本部講堂において、文化体育事業の一環として一般社団法人落語協会所属 金原亭 馬治氏に出演を依頼し、新春火消寄席を開催いたしました。

文化体育事業は、団員相互の交流を深め、消防団活動が円滑に行われることを目的として開催され、今年は火の用心に因んだ滑稽ばなしを披露していただきました。会場に集まった43人の団員の笑いが絶えない和やかな雰囲気の中、大盛況のうちに終了しました。

これからも団員一丸となって、市民が安心・安全に暮らせる街づくりに貢献していきたいと考えております。



東 西 南 北 防災とボランティア訓練 千葉市消防局

千葉市消防局中央消防署では、平成27年1月17日（土）、消防に対する理解と協力を深めていただき、市民の防火防災意識の高揚と住民の安心と安全の確保を図ることを目的として「防災とボランティア訓練」を開催しました。

多くの来場者が、はしご車の体験乗車、起震車による地震体験、家族でできる応急処置体験を職員とともに、楽しみながら学びました。また、災害対策アドバイザーの水島講師による「自助共助」と題した講演は大好評であり、防火防災意識を高めることができました。

講演会場では、来場者から感嘆の声と拍手がおこり、防火防災の大輪が咲き誇りました。



東 西 北 平 成 2 6 年 秋 季 全 国 火 災 予 防 運 動 に 伴 う 防 火 キ ャ ン ペ ー ン

東 南 北 船 橋 市 北 消 防 署

船橋市北消防署(真木 照署長)では、11月15日(土)秋季全国火災予防運動の期間中に地域の皆さんと一体となった防火キャンペーンを展開するため、消防署を開放し、普段は立ち入ることのできない署内の見学



や地震体験等、消防の仕事や火災予防を学ぶことができるように「消防ふれあい広場」を開催しました。

当日は秋晴れの中、多くの方々が来署され防火・防災に対する意識の高揚が図られました。

また、真木北消防署長から職員に対して「今回のようなイベントを通して消防を知ってもらい、今後も市民のために働いてもらいたい」と伝えられました。

東 西 北 救 急 隊 員 ・ 医 師 等 合 同 研 修 会 の 開 催

東 南 北 千 葉 市 消 防 局

千葉市消防局では、平成26年11月26日(水)千葉大学医学部記念講堂で、救急医療の最前線で活躍する医師と救急隊員との交流を深め、最新の救急医療に関する知識の習得及び技術の向上を図るため、県内31消防本部(局)等から約200人が集い研修会を行いました。

本研修会は、平成8年から実施し今回で20回の節目となります。消防職員による救急活動をテーマとした症例発表会を開催した後、千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学教授による教育講演もおこなわれました。

救急医療の最前線で活躍する医師と救急隊員との交流が深まり、症例発表に対してアドバイザーから助言をいただき、消防本部(局)間の交流を含め有意義な研修会を開催することができました。



東 西 北 松 戸 消 防 6 0 周 年 記 念 ～ 決 意 を 新 た に ～

東 南 北 松 戸 市 消 防 局

松戸市消防局では、昭和29年11月1日千葉県下7番目の消防本部として、消防職員28名、消防車3台で発足してから、本年で60周年を迎えるにあたり、今までの感謝と将来に向けた消防のあり方を考える機会として、平成26年11月26日に消防関係者を招き、松戸市民劇場にて記念行事を開催しました。若い職員の意見発表や(株)オリエンタルランドセキュリティ部マネージャーの方の防災講演により、職員の決意を新たに示すと共に、消防関係者が一堂に会し、より一層強い絆のもと消防防災体制の充実強化を図ることができました。



東 西 南 北 **エボラ出血熱疑似症患者対応訓練に参加**
千葉県消防局

千葉県消防局では、11月29日(土)千葉県総合保健医療センターにおいて、当市保健所が開催した対応訓練に消防局救急隊員60人が参加しました。エボラ出血熱疑似症患者が発生した場合、関係機関が連携し、それぞれの役割を理解し共通認識を持って行動できるよう医療機関までの移送方法や防護衣脱着要領、検体輸送等の一連の活動が確認されました。



東 西 南 北 **柏市消防局西部消防署たなか分署が移転開署**
柏市消防局

柏市消防局では、平成24年度から旧大室分署移転建設事業として旧大室分署より北へ1.6キロメートルの位置で建設が進められ、平成26年11月に竣工しました。たなか分署の開署により、市北部区域の管轄範囲の均等が図れ、災害活動が更に迅速に対応できるようになりました。

庁舎の特徴は、屋上に太陽光パネルを設置し、また雨水や放水訓練時の使用水を再利用できる耐震性貯水槽を配備し、環境に配慮した建物としました。

今後、新庁舎完成に伴い市内の消防・救急体制の均一化を踏まえ、職員新たな気持ちで取り組み、柏市内の地域防災に努めていきます。



○庁舎概要

- 鉄筋コンクリート造 地上2階建て
- 敷地面積1,398,81㎡ 建築面積563,59㎡
- 延べ床面積884,96㎡
- 1階 事務室、車庫、防火衣収納室、乾燥室等
- 2階 会議室、仮眠室(個室)、浴室、トレーニング室等

東 西 南 北 歳末警戒に伴う一日消防署長の巡視 船橋市中央消防署

船橋市中央消防署（大野光雄 署長）では、平成26年12月3日（水）東武船橋駅北口周辺において、火災の発生や救急出動要請の増える師走を歳末警戒として捉え、百貨店等の大規模小売店舗に対し、中央消防署長による特別査察を行い、火気の取扱い、避難経路や防火戸などの適正な維持管理を確認しました。

また、東武船橋駅北口周辺の百貨店等による防火組織「船橋駅前北口ビル共同防火管理協議会」の会員事業所内から、一日消防署長の委嘱を受けた職員が各事業所を巡視する等火災への警戒心の喚起や防火管理体制の強化について呼びかけました。

さらに東武船橋駅コンコースにおいては、中央消防署職員と女性消防団員が防火キャンペーンを展開し防火ポスターなどの啓発物品を配布しました。

最後に行われた消防局音楽隊のミニコンサートでは、一日消防署長も司会に加わり、年末の慌ただしさのなか行きかう多くの人々が足を停めていました。



東 西 南 北 大規模物品販売店舗の歳末特別査察を実施 松戸市消防局

松戸市消防局は、平成26年12月16日（火）株式会社イトーヨーカ堂八柱店の歳末特別査察を実施した。査察は、繁忙期を迎え多くの人出でにぎわう大規模物品販売店の消防用設備等の維持管理、避難通路の確保等、従業員が防火管理の重要性を再認識することを目的として行われた。

日頃から防火管理に取り組んでいる従業員も、消防職員の言葉に真剣な面持ちで耳を傾け「自分達の職場は自分達が守る」という自主防火管理の意識が、強く感じられた。



消防庁 消防研究センター

平成27年度 消防防災科学技術賞作品募集

応募受付期間：平成27年4月1日（水）～ 5月8日（金）（平成27年5月8日消印有効）

問合せ先：消防庁 消防研究センター 研究企画室

TEL：0422-44-8331 E-mail：hyosho2015@fri.go.jp

※詳細は消防研究センター HPをご覧ください。 <http://nrifd.fdma.go.jp/>

日々の動き

防災危機管理部／消防協会 共同編集

平成 27年度

- 3月18日 千葉県消防大会
(青葉の森芸術文化ホール)
- 26日 千葉県消防協会定時理事会(千葉市)
- 27日 千葉県消防協会臨時評議員会(千葉市)



平成27年 春季全国火災予防運動の実施 平成27年3月1日～3月7日

重点目標

- (1) 住宅防火対策の推進
- (2) 放火火災防止対策の推進
- (3) 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
- (4) 製品火災の発生防止に向けた取組の推進
- (5) 多数の者が集合する催しに対する火災予防指導等の徹底
- (6) 林野火災予防対策の推進

平成 26 年度 全国統一防火標語
「もういいかい 火を消すまでは まあだだよ」

<表紙の説明>

「成田の梅まつり」成田市（印旛支部）

成田山公園は、大本堂後方に広がる165,000㎡の大庭園で、旧齊藤家夏の別荘や渋澤榮一郎などを手がけた庭師、2代目松本幾次郎により昭和3年に完成。以来四季を通じて情緒豊かな庭園美の世界を見せてきた。そんな、四季折々趣のある庭園にて春の息吹を感じられる行事として、2月21日から3月8日に行われる成田の梅まつり。紅梅白梅合わせて約500本が植えられており、平均樹齢は50年を超え、苔むした古木が多く凛とした気品のある花は、参詣客の目を楽しませてくれる。

